

a 学校教育目標	生徒一人ひとりの可能性を最大限に伸ばし、心も個性も豊かな人間の育成を図る。	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】(自校の使命) 知・徳・体の基礎基本が身につく、社会で尊重される資質を持った生徒の育成 【ビジョン】(自校の将来像) 生徒が行きたいと思う学校、保護者が行かせたいと思う学校、教職員が働きたいと思う学校	目指せ！ 部活動・挨拶 日本一
----------	---------------------------------------	----------------------	--	-----------------

評価計画				自己評価					改善方針		学校関係者評価			
c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月	2月	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	改善方針	I 評価			
					h 達成値	h 達成値					イ	ロ	ハ	
確かな学力の育成	授業規律の徹底	全教科、全教職員で共通した取組みの実施 ①五中授業スタイルの徹底による授業改善	五中授業スタイルを守っている生徒の割合(%)	80	78	81	101.0	A	始業開始は、教員が早めに教室に行くことでほぼ守られているが授業道具の忘れ物などが固定化している	授業者による点検活動の徹底が必要である。忘れ物をさせない。また、教室に授業道具を置いて帰らない指導を行う。	4			・家庭学習の充実を目指して、保護者とともに各生徒が具体的な内容を設計していく指導ができないものだろうか。 ・2年生の家庭学習提出率は向上しているが、1年生の下降が気になる。
	家庭学習の習慣化	適切な量の宿題及び確実な点検 ①漢字1日1ページ、英語の毎日ノート等 ②生活ノートを使った点検活動	課された宿題の提出率(%)	85	80	79	92.9	B	2学期に行事も多忙を極め点検がおろそかになっている面があり、やらせられていない。生活ノートの活用が不十分である。	教科担任・学級担任・保護者の連携が必要である。教科担任まかせにならないよう連携を密にし、指導していく。	4			・授業がわかり易いと感じている生徒が8割以上あれば標準学力テストの通過率もUPするはずで、何となく解ったという生徒が少なからず存在する気がします。 ・参加率を上げる為は何をやったのかわからない。
	教職員の指導力の向上	校内・校外研修への積極的参加 ①教育センター、公開研究会等に1人1回以上参加 ②校内授業研修を年3回以上実施	授業が分かりやすいと感じている生徒の割合(%)	80	83	83	103.7	A	試験期間に教科ごとに質問期間を置いているが参加率が低い。	標準学力テストで通過率が30%未満の生徒に対する個別の指導が必要である。また、研修報告書を書き研修の場でも共有が必要。確かな学力については、評価指標を各種テストの通過率を数値目標にする等の改善が必要である。	2		2	・道徳授業の成果として生徒がどのように変化したのか把握しておくこと。例えば電車で座席を譲るようになった。とか、率先してゴミを拾うようになったなど。 ・地域においても生徒の変化が見られるようになる。素晴らしのようです。 ・不登校生徒が少なくなっている取り組みは素晴らしい。今後にも生かして欲しい。 ・外国人の保護者の取り組みを継続してください。
豊かな心の育成	基本的な生活習慣の確立	◎①心のこもった「あいさつ」を励行する。 ②小中連携を推進する。 五中ブロック校長会と主任レベルの会の開催	基本的な生活習慣がについていると思う生徒の割合(%)	80	86	86	107.5	A	生徒会の取り組みにより、外来者に対する挨拶は概ねできるようになった。校門での挨拶や日常の挨拶が不十分である。掃除については、点検表を活用することによりとても良くなった。小中連携も校長だけでなく生徒指導、教務主任等主任レベルの会を持つことができた。	日常の学校生活において、教師が授業はじめ、終わりの挨拶や部活指導における挨拶を徹底し指導する。掃除点検表の取組を継続する。小中連携については、主任レベルの会を継続し、中一ギャップ解消や15年を見据えた目標づくりを模索する。	4			・日常の学校生活において、教師が授業はじめ、終わりの挨拶や部活指導における挨拶を徹底し指導する。掃除点検表の取組を継続する。小中連携については、主任レベルの会を継続し、中一ギャップ解消や15年を見据えた目標づくりを模索する。
	◎道徳教育の充実	①道徳授業の公開 ②外部講師を招聘しての授業研究の実施 ③心に響く教材の発掘	道徳授業がためになると思う生徒の割合(%)	85	85	86	101.2	A	校内研修を重ねることにより指導案の作成、指導技術面で工夫改善がみられた。生徒の道徳に対する興味関心も高まった。特に2、3年では事例を教材化していく。指定が終わっても道徳教育の取り組みを継続する。	既成の資料だけでなく、生徒の実態に即した教材の開発に取組むことが必要である。地域の事例を教材化していく。指定が終わっても道徳教育の取り組みを継続する。	4			・生活アンケート実施後の個別指導や懇談会等で保護者に直接話をする機会を持つ。
	不登校生徒の未然防止	スクールカウンセラー等を活用した教育相談活動の実施 ①月2回の教育相談委員会の開催 ②SC、心の相談員との有効な連携	新たに不登校になる生徒の人数	3人以下	1人	1人	100.0	A	学期に1回教育相談アンケートを実施し、担任が面談することにより、生徒の課題を早期に解決することができた。教育相談委員会を中心としてsc、心の相談員、担任、生徒指導部等が組織的に対応できたのが良かった。	学期1回の教育相談アンケートと個人面談を継続していく。教育相談委員会の定期開催と充実を図り、組織的な活動を続ける。	4			
健やかな体の育成	◎部活動の積極的推進	部活動への参加の促進 ①部活動出席簿による出席の管理 ②放課後の部活指導の徹底	部活動に積極的に参加している生徒の割合(%)	90	87	85	94.4	B	部活動に熱心に取り組み、陸上駅伝部、科学部が連続で全国大会出場を果たすなど成果が上がっている。1年生を中心に部活動の変更をした生徒がいるが変更先でも上手く部活動に馴染みず位置づかない生徒がいる。	部活での人間関係などコミュニケーションがうまく取れない生徒が増えている。あらゆる場面を通してコミュニケーション能力をつけていく。1・2年生の部活での面談を続ける。転部希望者や地域スポーツクラブの生徒の練習参加の体制の検討をする。	4			・コミュニケーションを取りにくい生徒の指導とともに、受け止める側の力もしっかりとつける必要がある。
	健康教育・食育の推進	保健・安全や食育に関する啓発 ①保健だよりの発行(月1回)及びSHRでの活用 ②安全点検の実施(月1回) ③食の指導	自分の健康に気がついている生徒の割合(%) 朝食を毎日食べる生徒の割合(%)	90 95	89 94	88 94	97.8 98.9	B B	ほとんどの生徒が健康を意識した生活をしている。寒くなって少し生活リズムが崩れた生徒が増えている。 ほとんどが毎朝朝食を食べてきている。残りの数パーセントの生徒の指導が課題である。	引き続き保健だよりやSHRの時間を活用して指導を行う。保健だよりを拡大し、廊下等に掲示するなどして意識の高揚を図る。 生活アンケート実施後の個別指導や懇談会等で保護者に直接話をする機会を持つ。	4			
	機動的な学校運営体制を確立するとともに保護者・地域との連携を深める。	学校関係者評価委員会の開催と活用 ①年3回の委員会の開催 ②学校経営目標とリンクした個人目標の設定	学校関係者評価委員による肯定的評価の割合(%)	80	88	93	116.3	A	学校関係者評価委員の肯定的評価は、中間が88%、最終が93%で目標値を越えることが出来た。評価指標をどのようにするかが課題である。	学校の情報発信として、学校だよりを委員さんに配布している。各種行事だけでなく日頃から足を運んでいただく工夫が必要である。	4			・「学校だより」しっかり読ましてもらっています。 ・学校だよりを送ってもらって校内の様子がわかった。 ・HPの作成が個人に片寄り負担増にならないように。 ・外部人材に頼んで読むのだからそれでもよいのではないかと。 ・HPの更新が学校独自で行えるようになることを切望しています。
信頼される学校	学校情報の積極的発信	定期的な情報発信と確実な伝達 ①月1回の学校だよりの発行 ②定期的なHPの更新 ③学年学級だよりの定期的な発行	学校だより、学年だより等を欠かさず読んでいる保護者の割合(%)	80	-	83	103.8	A	昨年に比べ欠かさず読んでいる保護者が7%上昇した。学校だよりは月1回以上発行することができた。通信の発行が少ないうえに学年があった。HPの更新が外部人材に頼らなくてはならなかった。	当初育成する予定であった職員が人事的な事情により、HP更新の役割を担えなくなった。HP更新の人員を複数人数育てる必要がある。	3		1	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【: 自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成) B: 80≦(ほぼ達成)<100
C: 60≦(もう少し)<80 D: (できていない)<60

【I: 学校関係者評価 評価】
イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。
ハ: わからない。